

1. 地元で大歓迎された丸井中野店オープン

丸井の創業の地である中野店が13階建の高層ビルに建て替えられ、B1階～6階が店舗（7000㎡）で上層階がオフィス等の複合ビルに生まれ変わりました。

地元ではなくてはならない存在の丸井でしたから、オープン当日は待ちに待ったお客様がなんと4万人も来店したそうです。丸井中野店のコンセプトと店舗構成は地元密着型の商業施設のモデルになります。店づくりのポイントは「ふらっと立ち寄れて楽しく過ごせるみんなのマルイ」「お客様と一緒に作り続ける店」でした。館内を見て強く感じられたのは、このコンセプトが店舗構成や中庭、空間、トイレ等に現れている点です。各フロアのキーワードは気張らず、気軽に、ちょっとワクワク、普段使いのおしゃれ、美味しさとお届け等です。これも中野住民からすれば嬉しい提案です。私が見た注目店は1F LOBROS（自由が丘で人気のスイーツ&ベーカリー）、スタイルマルシェ（自主編集の婦人雑貨）、ビックママ（リフォーム、靴修理）、2F LOBROS カフェ（アボカド入りサンドは大人気）、3F カジュアル、スポーツウエア、ハンズビー 4F キッズステージ（マクマーレンのベビーカーから雑貨）、良眼工房（マルイのオリジナル）、5F グリル&カレー カキヤス（一番人気）、トラットリア ノリータ（石窯使いのピッツァが人気）、6F ビューティ&ケア等々でした。中野駅から新宿まではわずか6分です。が、わざわざ都心に出かけなくても普段着で気軽にコンビニ感覚で行けるのが丸井中野店です。それでいてちょっとおしゃれな丸井です。結果、売り上げも予算を大幅にアップしているようです。このコンセプトは悩める地方都市の商業施設の良き参考になること間違いありません。

2. 小田急新宿ミロードがES賞に輝く快挙

今こそES（従業員満足）が大事な時代です。とりわけSC流通ビジネスは従業員を取り巻く環境が問題です。①長時間労働 ②深夜労働 ③土日祭日が休めない ④賃金の低さ ⑤安全面の不安等が挙げられます。全国3,000ヶ所を越えるSCの多くは顧客満足CSを最重要課題として取り組んでいます。SC接客コンテスト等や定期的なCS調査や教育を行い、日本のSCは世界に誇れる水準になってきています。ところが肝心のテナントESに関しては一部で行ってはいないものの、テナント従業員からするとまだ充分とは言えないのが現状です。私は以前から「ESなくしてCSなし」と事あるごとに言い続けてきました。この度、第13回ディベロッパー&テナント大賞の部門賞に新宿ミロードが選ばれました。同SC「露木香織所長」以下スタッフの日頃の努力がテナントから評価された嬉しい証しと言えます。

同SCは例年、プロポーザル賞の常連になっています。テナント従業員は女性が9割以上、店長の6割強が20歳代、1年以内で4割の店長が入れ替わり、マネジメントが実に難しいSCですが、SC事務所として最も大事にしている点はテナントとのコミュニケーション力の向上です。具体的には①挨拶運動の徹底、②従業員後方施設の充実等です。何社かのテナントからお聞きすると親しみやすく相談に乗ってくれるありがたいSCだそうです。従業員休憩室はいつも明るくテナント同士が和気あいあいの光景がいつでも見られます。又、小田急のSC事業は、マネジメントのインフラにCSだけでなくES調査に基づくマネジメントを10年継続しています。このESマネジメントを全国のSCも是非、見習う必要があるでしょう。

3. 花崎ルミネ会長の提言とミスター百貨店の口癖

ルミネの花崎淑夫会長の新年会での発言が、ファッション業界の各方面で共感を呼んでいます。前回のこの欄で紹介しましたが、花崎発言の要旨はこうでした。「量でなく心の求める価値を作るため、絶滅危惧種になりつつある日本の産地を見直すべきだし、商社任せのOEM・ODMから脱すべきだ。アウトレットの都市部近郊への進出も問題だ」。

この発言を聞いて、“ミスター百貨店”と称された故山中鑽さんの口癖を想起しました。山中さんは、伊勢丹専務から松屋社長、東武百貨店社長を歴任した、親分肌のミスター百貨店でした。その山中さんは、百貨店のあるべき姿や今後の方向などを話したり、売り場などで社員教育を行う際、「綿糸40単の相場を知っているか？」と話しかけるのが常でした。

「綿糸40単」の「40」は糸の太さを表す数字で、「単」は「単糸」のことです。「綿糸40単」は、40番手単糸の綿糸のことです。何故、山中さんはそんな話をしたのでしょうか。それは、「百貨店のバイヤーだったら、自分が仕入れる商品は、素材のことまで知悉していなければいけない」とのプロフェッショナル精神とその実践の重要性を「綿糸40単」に重ねたものだからなのです。「綿糸40単」は、シャツから寝装品まで使われる綿糸の代表的な品種です。その相場を知っているバイヤーこそがプロのバイヤーなのだ、というわけです。

当時、繊維製品の生産・流通構造は山中さんが第一線で仕事していた頃に比べると大きく変化していましたから、「綿糸40単」の相場を知らなくても、プロの仕事はできました。しかし、素材やものづくりの現場を知らないバイヤーには、耳の痛い問い掛けであったことは間違いありません。

さて、時代は変わって花崎さんの問い掛けです。さぞかし耳が痛い人が多いことでしょうか、果たして「耳の痛い」話を耳にした人の何人が具体的な商品提案で花崎さんの提言に應えるのでしょうか。このことは、世界に誇れる匠の技を持つ日本の産地が絶滅の危機から復活するか否かの問題でもあるのです。

4. 「服の日」パーティーで思ったこと

2月9日は、「服の日」です。日本語特有の語呂合わせですが、この日（休日の場合はその前後に開催）は、毎年、ファッション関連の人材育成事業を推進している財団法人日本ファッション教育振興協会（大沼淳会長）主催で、服飾系専門学校やアパレル企業の担当者らが集うパーティーが開かれます。

今年は、ずばり2月9日の「服の日」に開かれました。全国の専門学校の先生、アパレル企業の人事担当者、行政の関係者が「産学交流」を図る会場で、何人かの専門学校の理事長、校長と話しましたが、少子化の影響で学生が集まりにくくなっていることと就職の厳しさを嘆く声を多く耳にしました。

大沼会長はあいさつで「ファッション教育の質の向上に努めてきましたが、必ずしも順調ではない。日本のファッション産業が隆盛にならないと学校も存立できません」と危機感とともに産業側の奮起を促したのが印象的でした。

産業も企業も基本は人。人材育成は永遠の課題ですし、人材育成と産業振興は「ニワトリと卵」の関係にあります。しかし、来賓の廣内武日本アパレル産業協会理事長が述べた「アジアのフロントランナーの地位を維持するためにも専門学校の若い力が必要です」との呼びかけは極めて重要です。「アジアのフロントランナー」の自覚を持って、産学双方が奮起しなければ日本のファッションの未来は明るくなりません。

5. NYで話題の「ジョーンズシャンハイニューヨーク」銀座店

ニューヨークで行列のできる人気店として有名なチャイニーズレストラン「ジョーンズシャンハイ」。ここ銀座店のオーナーは日本人の作曲家で、NYに住んでいた時に通ったこの店の味が忘れられず、世界中からのオファーを断り続けている名店に熱烈なアプローチをかけ去年の冬、世界初の海外出店として銀座に店をオープンさせました。ウェイティングバーとラウンジ、メインダイニングには豪華なスワロフスキーのシャンデリア、おしゃれでハイエンドなチャイニーズレストランとしてアドレスに入れておきたいお店の1つです。この名物は蟹肉と蟹味噌入りの小籠包です。かなり大きなサイズのこの小籠包をレンジにのせ、そこに黒酢を付けたショウガの千切りをのせるという典型的な小籠包の頂き方を薦められます。これがとても美味しくて癖になる味です。小籠包のなかにたっぷり入っているスープもこくがあり、れんげに残ったスープも全て飲んでしまいました。ホールの方達もまだごちない所はありますが、ちょっと気取ってなおかつ丁寧な接客を心がけているようです。席もゆったりしているのでビジネスランチや週末にゆっくりランチを楽しむにはお勧めの場所です。ランチは小籠包とデザートがついて1500円〜。中央区銀座1-9-13 銀座柳通りビル B1F TEL: 03-3535-5515

営業時間：月～金 11:30～14:30(L/O) 17:30～22:00(L/O)

土、日、祝 11:30～15:00(L/O)

17:00～22:00(土L/O) 21:00(日・祝L/O) 無休

6. アートギャラリー&ダイナー「digeout ART & DINER」

大阪アメリカ村に「ディグミーアウト」というとても面白いカフェダイナーがあります。まだ若い才能を持つアーティスト達を発掘、紹介している大阪 FM802 局の情報発信基地として「ヤングアート、大阪から世界へ」というスローガンを掲げ、色々なプロジェクトを試みながら今大きな話題を集めています。若いアーティストのオリジナル作品や絵はがきやアートを展示販売したり、私が訪れた時は Konefa という滋賀県湖北地域で農業を営む若手農家組織とイラストレーター、写真家、パフォーマー等とのコラボが行われていました。今やコラボは当たりまえですが、その仕掛け方が独特です。そして馬鹿にできないのがこのカフェご飯。

パスタもきちんと手打ちパスタを使っていてなかなか美味しいのにびっくりしました。ランチ時にこんなアートに囲まれながら食事をするのも楽しいものです。

ランチは¥780〜

大阪市中央区西心斎橋 2-9-32 アローホテル B1 TEL: 06-6213-1007

営業時間：平日 11:00～翌3:00

金 11:00～24:00

土 24時間営業

日 ~午前5:00

無休